

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 セントリフューガル・マス2	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.510	△RG 0.055	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール

フレアーの幅
インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離
番
4 3/4 インチ

比較対照ボール：セントリフューガル・マス

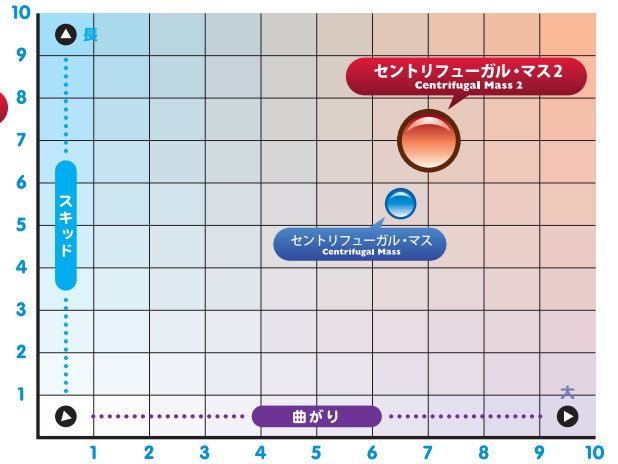
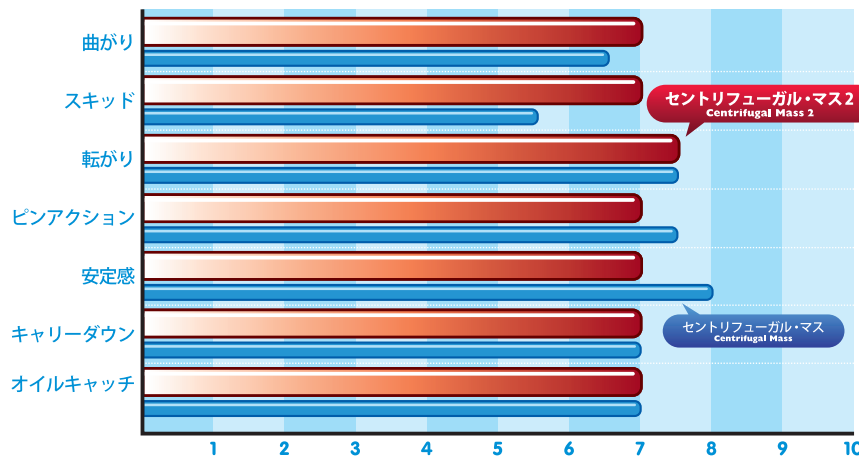
フレアーの幅
インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離
番
4 3/4 インチ



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

初代の「セントリフューガル・マス」は、カバーストックにパーティクル要素の強いカバーストックを搭載し、あくまで派手なリアクションを抑え、コントロール性能にこだわりを持った仕上がりでした。しかし同じダイノタン製品の中でも「エレメントシリーズ」に多くのニーズは傾き、バックエンドリアクションを重要視する傾向は、今なお使用者の多くが求めている事と思います。今回の「セントリフューガル・マス2」はあくまでバックエンドリアクションを重要視し、ドライゾーンで一気にエネルギーを開放できるような従来の**MASS コアにパール・リアクティブを搭載いたしました。**この「セントリフューガル・マス2」は如何に強いモーションポテンシャルを殺すことなくバックエンドリアクションに反映する事ができ、なおかつ軸移動を完了させポケットヒットさせられるかどうかにこだわり、数多くのテストボールから妥協を許さず生まれた逸品です。今回採用されたカバーストックと**MASS コアの組み合わせはパール・リアクティブを感じさせないほど、オイルに対しての弱さは感じられません。**逆にドライゾーンでの反応が良すぎて暴れてしまう感じも見受けられます。だからこそこのボールを発売する意味もあり、バックエンドのリアクションを重要視した目的も解って頂けると幸いです。ミディアム～ミディアムオイリー対応のバックエンドの動きを楽しみたい方、是非お試しください。

特記事項

マスバイアスのロケーター・ピン (CAP) はバックエンドの動きを重要視する場合、バーティカル・アクシスライン (VAL) 線上より1インチ以上手前にセットするよう心がけてください。